

第1回サッカースタジアム検討協議会

事務局

本日は大変お忙しい中、御出席いただきありがとうございます。ただ今から、第1回サッカースタジアム検討協議会を開催いたします。私は協議会事務局の先本と申します。この協議会の会長が選任されますまでの間、会議の進行役を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いします。なお、この協議会は公開で開催させていただいております。

この会議の開会にあたりまして、この協議会の立上げを要請いたしました広島県サッカー協会、広島県、広島市及び広島商工会議所の四者を代表して、広島市長より御挨拶をいただきます。松井市長、よろしくお願いいたします。

市長

おはようございます。第1回のサッカースタジアム検討協議会開催にあたりまして、広島県サッカー協会、広島県、広島市及び広島商工会議所の四者を代表いたしまして、一言御挨拶申し上げたいと思います。

この度は、本協議会の委員に御就任いただき、また、御多用の中、御出席いただき本当にありがとうございます。サッカースタジアムの整備ということに関しましては、スタジアムの規模、建設場所、管理運営方法、事業スキーム、事業収支、類似の施設との棲み分け等々、解決しなければならない多くの課題があるということで、四者の共通認識に立っております。

また、これらの諸課題に対しての解決策ということにつきましては、幅広い議論が行われる中で、市民の納得いくものにしていく必要があるということについても、また共通認識を持っております。そこで、組織として一定の制約を受けるような県、市、経済界といったような立場からは直接委員を出すという事は行わないで、サッカーや県・市のスポーツに精通した方、まちづくりなどに精通した学識経験者など、いわば有識者の方々に、市民目線に立ちながらも、その専門的知識を発揮して、これら諸課題についての解決策をとりまとめていただくために、協議会という場を設置するのが良いであろうということで、四者協議の上で、本日お集まりいただきました皆様方に委員の就任をお願いするといった経過を踏まえてのことです。

今後、委員の皆様には、広島に求められるサッカースタジアムというものが、どういった規模で、どういった機能を付加して、そして、どの場所で整備すると、広島全体の活性化につながるのか、あるいは、建設や管理運営といったものには、どのような手法を用いるのが適切か、さらには、今あるサッカースタジアムはどのように取り扱っていくのか、今日なんか新聞を見ますと、現地に残してくれという要望もするという動きがあるというふうに言っております。そういったことも含めて、自由闊達な御議論をいただいた上で、できれば今年度の末ごろに、中間取りまとめをしていただき、さらには、来年の秋には最終取りまとめをしていただくことができればいいんじゃないかなと思っているわけでありです。

そして、この協議会で取りまとめられた成果につきましては、四者で受け止めて、具体的な対応というものについて、しっかり協議をしていきたいと考えております。

終わりに、皆様方の活発な御議論が広島全体の活性化に繋がるものになることを御期待申し上げます。私の御挨拶とさせていただきます。どうかよろしくお願いいたします。

事務局

ありがとうございました。市長は公務のため、退席となります。

(市長 退席)

事務局

それでは、本日は初の会合でございますので、委員の皆様の自己紹介をお願いしたいと思います。なお、本日は、鶴野徳文委員が所用のため御欠席されています。それでは、あいうえお順ということで、加藤厚海委員からお願いします。

加藤（厚）委員

広島大学社会科学研究所の加藤厚海と申します。私の専門は、経営学全般なんですけれども、特に産業クラスターとか、一部都市開発も関わる部分での研究なども進めております。どうぞよろしくお願いいたします。

加藤（義）委員

公益財団法人広島県体育協会の会長を務めております加藤義明でございます。他には、サンフレッチェ後援会の会長も務めておりますし、また、日中協会とか、ボーイスカウト連盟のお世話とか、もう一つ、市からの要請がありまして、市民球場の運営委員会の委員にもなってもらっています。そういう意味で、今日は、体育協会の立場で参加をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

川平委員

ひろぎん経済研究所の川平でございます。私は、昨年6月に広島銀行を退職いたしまして、現在のひろぎん経済研究所へ参っております。経済研究所というのは、御承知だと思いますけれども、地域の産業調査であるとか、経済調査、そういったものをやっているのでございますが、そういった経験がまだ少ない中で、今回の協議会に参加させていただいておりますけれども、そういった知識を活かしながら、お役に立ちたいと思っております。

それと、もう一つ、加藤義明委員の方から先ほどサンフレッチェの後援会の話が出ましたが、実は私も、銀行在籍時からサンフレッチェ後援会の副会長の一人として、後援会活動をさせていただいておりますけれども、当然のことながら、本協議会においては、ひろぎん経済研究所理事長としての立場で議論に参加させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

小谷野委員

株式会社サンフレッチェ広島代表取締役社長の小谷野でございます。昨年4月から、私はサンフレッチェの経営に社外取締役として加わりまして、昨年の減増資の実施、また、それに伴う新たな経営再建計画の策定に関わってまいりました。そして、10月から常務取締役、今年1月から社長をさせていただいております。私は、元々は東京で生まれ育ちましたが、

カープもサンフレッチェも大好きということで、広島の街には毎年のように来て、レジャー、そして観戦を楽しんでまいりました。サンフレッチェの経営者として、また、サッカー、野球、スポーツ、広島のまちを愛する者として、議論に参加していきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

高木委員

アンデルセン生活文化研究所の相談役をしております高木と申します。私は、長年商いをしてまいりまして、その中で、この広島のまちに育てていただいた恩義がございます。それで、少しでもまちの活性化にお役に立つことがあればということでお受けしました。私は、唯一ここで女性なので、女性の目線で、女性がどんなまちに住みたいかという視点から、発言させていただければと思っております。

塚井委員

広島大学大学院工学研究院の塚井と申します。専門は都市計画、交通計画というところでございまして、今回、そのようなまちづくりの視点からということで、お招きいただいたものと思っております。私個人は、広島市の郊外で生まれ育ちましたものですし、小さい頃は市民球場に自転車で通っていたりというような経験もございますので、まちの変遷はある程度目で見えて判断できるかなと思っております。広域的な視点から、まちづくりの視点から、良い提案になればと思っております。どうかよろしくお願いいたします。

永田委員

広島経済大学経済学部スポーツ経営学科の永田でございます。私の方は、専門としましては、スポーツを使った経済から経営から、そういった物の見方でスポーツをいかに盛り上げていくか、また、まちを盛り上げていくかということを専門としています。特に海外の事例とか、スポーツを使ったまちづくりを行う、そういった事例を検証しておりまして、いかにスポーツが人々の生活に入り込んでいくか、その過程とか、そういった状況とか、また、スポーツクラブの運営とか、そういったものを研究しております。そういった視点から、私も広島で生まれましたので、広島が今後20年、30年、若しくは50年という長期スパンで、未来の方々に託せる広島というためのサッカースタジアムを検討していきたいというふうに考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

野村委員

広島県サッカー協会名誉会長の野村です。私は、サンフレッチェにつきましては、立ち上がりから関わっておりまして、発起人代表も務めました。日本サッカー協会の方も、2006年まで副会長を務めまして、今は中国サッカー協会の会長をしております。専用スタジアムについては、前々からの希望でありまして、今のビックアーチがいかに不便なのかということも、皆さんご存じのとおりでありますし、新しいスタジアムを作ることによって、仙台が非常に良い例だと思いますけれど、仙台は非常にいつも賑わっておるというふうなことで、まあ、仙台につきましては、私の考えよりは狭いスタジアムですけれども、そういうことがあります。昔から札・仙・広・福と言いますけれども、札・仙・広・福の中でサッカー専用

スタジアムがないのは広島だけでありますので、どうぞよろしくお願いします。

三浦委員

広島修道大学人間環境学部の三浦と申します。よろしくお願いします。私の専門は元々、都市環境デザインというところです。なぜそういう名称かと言いますと、都市というものを着目した時に、私が研究分野に入った頃は環境というものが非常に制約条件になっていた時代でした。都市を持続的にするためには環境への対応が必要だったということでそういう分野を研究してまいりました。主にハードの部分で研究をしていました。その後、都市というものを持続させるためには、単に環境対応という一側面だけではなくて、都市を巡るいろいろな課題に対して対応し、それをハードだけではなくて、そこに住まう人々も共に、未来志向で持続的にしていかなければいけないということを思いを馳せて、今、研究を広げてやっているところです。今回も、広島というまちの中でサッカーというものをどのように意味づけし、スタジアム整備を今後のまちづくりと言いますか、世界の中での広島というまちをどう作るか、日本の中でどう作るかというところに関わってくる一つの重要なピースとするかを考える機会になると思いますので、しっかりと議論をさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

山根委員

公益財団法人広島市スポーツ協会の会長の山根でございます。広島市スポーツ協会は、広島市民のスポーツの振興発展及びスポーツの強化ということを目指しておりまして、スポーツ団体を統括し、かつ学区体協とか、そういうスポーツ振興組織も統括しているところでございます。また、スポーツ施設、広島市のスポーツ施設の指定管理者ということでありまして、エディオンスタジアムの指定管理もさせていただいているものでございます。サッカーが広島のスポーツとしてさらに強化されて、広島の発展につながればと願っているところでございます。よろしくお願いします。

事務局

どうもありがとうございました。

それでは、会長の選出を行いたいと思います。サッカースタジアム検討協議会規約第3条によれば、会長は、委員の互選によることと定められております。御推薦、あるいは御意見等がございましたら、お願いします。

(永田委員 挙手)

事務局

はい、永田委員、お願いします。

永田委員

私の私見から申し上げて、せん越なのですが、有識者という形で、我々大学の教員が4名選出されまして、中立、公平に見識を申し上げるといった形で参加させていただいております。

す。その中で、今後、スポーツ、スタジアムの在り方というものを作っていく中で、やっぱり中心にはまちづくりという形で考えていく必要があるのかなと思っております。それで、突然で申し訳ないですけれども、年長者である三浦先生を御推挙したいと思うのですが、皆様いかがでしょうか。

事務局

はい、ただ今、永田委員より三浦委員を会長にという御推薦の声をいただきましたけれども、皆様、いかがでしょうか。

(異議なしの声)

事務局

皆さん異議なしということで、それでは、三浦委員を会長にということで。

では、三浦委員、会長席の方へよろしく願いいたします。これからの進行につきましては、三浦会長の方をお願いしたいと思います。

(三浦会長 会長席へ移動)

三浦会長

改めまして、会長に任命されました三浦でございます。ここに委員として入られている方は、今回のテーマに関して、かなりこれまでの経緯の中で関わりがあった方だと思います。そういった中で私自身はそういった部分での関わりはございませんけれども、今推薦いただいたお言葉の中にありまして、都市の在り様ということについては、ある程度は経験もあるし、いろんな計画にも関わってきたと思っております。そういった視点から、本当に公平なフラットな立場で対話を進めていければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

お手元のサッカースタジアム検討協議会の規約をご覧くださいと思います。今、私の方は互選ということで会長に任命され、この後、協議会を進行することになっております。その第3条に、協議会には会長の指名により副会長を置くということになっております。私の方に何かあった場合に、いろいろ報道でもありましたように、毎月1回程度でこの会を開いていって、取りまとめをしていくということになっておりますので、そのこと自体に支障が起きてはなりません。もし私に事故があった時に、その職務を代理するための副会長を置くことができるということですので、これを私の指名によって行いたいと思っております。私の方から、山根委員にぜひ副会長をお願いしたいと思っております。いかがでしょうか。

山根委員

はい。

三浦会長

では、私の隣ですけれども、前の席に移っていただければと思います。

(山根副会長 副会長席へ移動)

山根副会長

どうぞよろしくお願いいたします。

三浦会長

はい。それでは、今回は第1回目ということで、この協議会というものの置かれている立ち位置等、そういったものをまず認識することが必要かと思います。

それでは、お手元の資料をご覧くださいませでしょうか。「サッカースタジアム検討協議会について」というタイトルになっております。その中で、「現状と課題」というものがあるわけでございます。「サッカー熱の盛り上がりを背景に、国内外の一定規模の大会の広島開催への期待も高まっていますが」ということに触れられています。実際に、先日ワールドカップへの出場も決まりましたし、今、サッカーに対しては熱い視線が注がれているところだと思います。それから、昨年度、サンフレッチェが優勝いたしましたし、今年度も上位に位置しております。そういった中で、使用している広域公園陸上競技場そのものが、サッカー専用スタジアムではないということがあります。この間のワールドカップの最終予選を見ましても、非常に素晴らしいスタジアムだったわけです。それらと比較すると、この陸上競技場はそのレベルに至っていないのが現状です。それから、Ｊリーグ公式戦を開催するにあたっていくつかの課題があるということになっております。お手元の資料にも書かれています。

これら課題を踏まえて、先ほど市長の方からもありましたように、広島県サッカー協会、広島県、広島市及び広島商工会議所の四者の方で、これまでの流れの中で、サッカースタジアム整備に向けていろいろ議論されておりました。そういった中で、ぜひこのサッカースタジアム検討協議会において議論をしていただきたいということで、示されたものになっております。

手元の資料を見ていただきますと、私も最初に触れました様に、現在の陸上競技場でのサッカー開催について、いくつかの課題があるということで、(ア)～(エ)の課題が書かれています。順番に読ませていただきます。

最初は、元々がアジア大会開催を契機に陸上競技の大会を開催するように作られた施設であります。施設構造もそのようになっているわけですね。でも、今のところ、サンフレッチェ広島のホームゲームを優先しているじゃないかというような批判があるということです。

それから、陸上競技場でありますから、当然トラックがあります。そのために、ピッチと呼ばれているサッカーの試合をする部分とスタンドの距離が遠く、これは水平距離、それから、高さ方向にも距離があります。今のところ、サッカー専用スタジアムのところだと、グラウンドレベルで見ることができる所も多いわけですが、そのような状況になっていないということです。結果的には、やや臨場感に欠けるという状況になっているということがあります。

3つ目として、いろいろな部屋、それから設備などが、日本サッカー協会のスタジアム標準を完全には満たすものになっていない。これは、本来陸上競技用に作られているという部

分で、どうしても不十分なところがあるというところです。

あとは、大きな試合があった時によく指摘されるところです。自動車で来場される客の設備などが十分ではないということが挙げてあります。これは、まちづくりとか、都市の作り方の中で、自動車での来場を前提とすること自体が良かったかどうかということも、一つ疑問な部分ではありますが、現状としては他に代替するものが十分ではないために、そして広域から人を集めるためにも、自動車を利用する状況となっているというものです。しかし、設備が十分ではなくて、Jリーグの公式戦が開催されるときには、激しい渋滞が発生するということです。競技場は私が勤務しています広島修道大学の目の前にありますので、Jリーグで大きな試合がある時には、これに配慮をした通勤通学をしなければいけないということが実際起きております。

こういったような問題が掲げられているわけです。そういったものの解決策として、今回協議をする。皆さんも共通だと思いますけれども、サッカースタジアムを作るのであれば、それが広島の魅力というところに十分繋がらないといけませんし、新しい広島のシンボル、これは、物としてのシンボルということもありますが、人々、市民あるいは周辺の市町の人々も含めて、心の拠り所になるようなものをしっかり作っていかないといけないということがあります。それから、広域的な集客ということも挙げてありますが、スタジアムという所に十分な人を集めるためには、広くサンフレッチェのファンを中四国全体から集めていて開催することです。あるいは、他チームの観客であっても集めていくことです。これは他のスタジアムで見たことがあるのですが、例えば横浜のとあるスタジアムですと、遠い所からでも新幹線等を利用すればこんなふうに来れますというのをPRしています。いわゆるアウェイですね。ホームだけでなくアウェイのチームのファンもいかに招くかということをアピールしているところがあります。そういった面で、サンフレの応援だけでなく、対戦相手のファンについてもしっかり集めていく、こういった視点で考えていかなければならないのかなと思っています。

そういったことが結果的には、広島市であるとか、その周辺の市町、そして、広島県全体の活性化、これは、経済的な面の活性化もありますし、人々が広島という所に対して、非常に誇りを持っていく、広島に住んでいることについて、非常に満足感といいますか、幸福度が上がっていくことになるのではないかなと思っています。そういったことに結び付けていければいいんじゃないかということが、ここでは触れられていると思います。

では、2番のところで「サッカースタジアム整備に係る諸課題」ということが書かれています。確かに、サッカー専用のスタジアムを作るということは、そのファンにとって、それから、競技する選手たちにとって、それから、それを見守る私たちにとっても良いことではあるのですが、現実的にはいろんな問題があるということになります。

見ていただきますと、1番に「永続的・安定的な利用の確保」ということが挙げられています。国内外の一定規模の大会の開催、これはどの程度の規模であるか、現状では、いわゆるJリーグの公式戦ということですが、さらには、日本代表がそこで試合をするようなレベルということもあると思います。それぞれのレベルということを考えたときにどのような大会を開くのか、それから主として使用されますサンフレッチェ広島の経営状況、先ほど、これまでいろいろ経理的な面で着手されたことについて、小谷野委員の方からお話もありましたが、これについても長期的な視点で見えていく必要があるということが挙げてあるわけです。

ね。それから、サッカー以外の人達との利用調整も必要となってくるということが掲げてあります。

2つ目には「長期的なJリーグの動向等を踏まえた対応」ということです。今年が開幕20周年ということだったと思いますが、当時より100年構想を打ち立てられていたと思います。そういった視点で、今20年たった時の段階、これからおそらくまた10年や20年というスパンそれぞれの段階で目標の設定があると思いますが、そういったものとの連動性等についても考えていかなければならないのかなということだと思います。

それから3つ目が「スタジアムの規模・設備について」ということで、具体的にどれだけの観客席数とか屋根をつけるのか、あるいは付帯設備、これは今、いわゆる映像の方の施設で不備があって、仮設と言いますか、移動式のものを今は置いておくということになっておりますが、そういったものをどうするのか。あるいは、試合を観に来た人について、どうおもてなしをスタジアムとしてやっていくのかということもあると思います。そういったことが課題として挙げてあるということになります。

それから4番の「建設場所」。今回、いろいろ議論とか思いがあることだと思いますが、今朝の新聞でも、地元が現在の位置での存続を希望ということがありました。それは、地域において活性化に関わってくることだということが掲げてあります。そこに、どのような波及があるのか、たぶん今地元の方は、自分のまちには、Jリーグで優勝したチームの公式戦が行えるホームスタジアムがあるという認識で、普段生活されていると思います。そういったことも、いわゆる効果になりますので、そういった部分をどうするかが課題になります。それから、最初に課題で挙げられたアクセスということですね。今、非常にそういった面で問題点があるのは確かですので、交通アクセスをどうするかということが必要になってくる。そういうことが指摘してあります。

それから、5番については、「付加する機能・施設」ということが掲げてあります。先ほど、永田委員の方からもあって、海外での動向、あるいは、世界でのサッカースタジアムというものが、かなり複合的な機能を有しているという御発言だったと思います。新聞等でも、そういった特集を組まれていると思いますが、単に試合というものをその場に観に来るだけではなくて、スタジアムがそこに存在をする。言うならば、昨年ですけれども、Jリーグで優勝したチームが主に試合をするスタジアムというものに対しての価値をどうつけていって、それを試合がない時にも、どう利用につなげていくのかというようなこともあるのだろうなと思います。そのあたりが、この経営上付加することが望ましい機能として指摘してあると思われます。それから、単にスタジアム単体ではなくて、まちづくりの観点から、これは広島というまちが、今後、日本の中、それから世界の中で、どのような位置になっていくのかというようなことを考える時の一つのツールと言いますか、ピースと言いますか、そういったものになるのではということだと思います。そういった時に、単にスタジアムをどんと置くのではなくて、どのような機能をそこに付加するのが、結局はより多くの人々にとって魅力的になるのかということも考えるべきだろうということが指摘してあると思います。

それから、今までは、こうあったらいいなということのポイントなのですが、実際に造るとなったら、当然、非常に費用がかかることです。そういったことから、「建設主体、管理運営方法」についても、ぜひこの協議会で議論していただきたいということで指摘してあると思います。建設費についても、確か今、ガンバ大阪のホームスタジアムについて、新設を

することが進められていますが、そこでは建設費用として3ケタの200億円ぐらいの数字が出てきていたかなと思います。それぐらいの費用が造るためには必要だというようなことも言われておりますので、そういったことを考えることが必要になってきます。

誰が造って、誰が管理運営するか、そこには次にある7ですね、資金をどうするのか、どういうふうに自分たちで資金を確保するのかという課題が付いてきます。当然、施設というのは造っただけでは不十分で、初期投資で作った後に維持管理、それから経年をすると修繕も必要になってきますし、単に修繕だけでなくその時代時代に応じた新しいものの導入ということが必要となってくると思います。おそらく今ですと、ITを使って情報を上手く見せていくということだと思いますね。リアルな試合というものをその場で体感するということも必要ですけれども、その時々例えばベンチサイドでこういった動きがあったかということであったり、個人個人の動きを、例えば手元でレポートして見られたりとか、いろんなものを付加することで、より訪れた方を楽しませることができるようになってくると思います。そういったものの新しい機能の付加というものが、おそらくまた入ってくる。そうしないと、他のスタジアムで、そういったものを経験した人が、地元の今回考えているサッカースタジアムに対する評価が低まってしまうといったことにもなりかねませんので、そういったものを全部考える必要が出てくるのだろーと思います。

そういったことをやった上で、どれだけの経済効果、波及効果が生まれるのか、そういうことです。これはやはり、先ほどのガンバ大阪の例を出した時に、資金は今、寄付を集めているわけですが、多くは法人からの寄付が占めているようです。それはやはり、単なるサッカーのチームということではなくて、それがあることに付随して、経済的なプラスがあるという思惑があるのだと思います。そういった面も十分考えて、経済の波及効果ということ、どれだけあるのかということも考えなければいけないと。これはたぶん、試合があつてどれだけ人が来て、それを機会にどれだけお金を落とすということだけでなく、他にも直接的ではない効果がおそらくあると思いますので、そういったことも考えるべきだろうということだと思っております。

それから最後9番ですけれども、「新たにサッカースタジアムを建設することに生じる既存の類似施設における課題」、これは例えば、新たに造った場合に、現状のエディオンスタジアム広島をどうするのか、あるいはその周辺にも設備、施設がありますが、そういったことをどうするのかということも関わってくるわけです。

(1)～(9)をぜひ考えていただきたいということを、四者の話し合いの中なか私たち委員に託されたところですので、こういったことをしっかり認識してこれから議論を進めていければと思っています。

今、こういったものが9つの項目で指摘をしてあるわけですが、そこで、委員の皆さんに御意見をお伺いしたいと思います。今回、検討協議会にはこのような点で議論すべきポイントが指摘してあったのですけれども、それについて意見を、先ほどの自己紹介の順番でいきたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。ちょっと時間をおいた方がよろしいですか。

加藤（厚）委員

そうですね。

三浦会長

若干先ほどの資料の見直し等をされながら、少し時間をおいて御意見をお聞きしたいと思いますので、ちょっとお待ちします。

はい、お願いします。

加藤（厚）委員

一つ確認させていただきたいのですが、これは、やっぱり新しいスタジアムを建てるということが、もう前提ということでしょうか。

三浦会長

それは、今、協議会に対して、「現状と課題」ということでこういった提案があったわけです。おそらく、どうすべきかということそのものを議論してほしいということだと思います。例えば、それは現状使っている所を改修するということも、選択肢の一つだと思います。今回は、それぞれの立場の中で、私たちもその専門領域の中で委員としてなっているわけですので、そういったものを踏まえて議論できればと思います。Jリーグの中のチームであるサンフレッチェが広島をホームタウンとしていることは変わらないわけですね。そういった中で、そのチームが、Jリーグの試合をする、あるいはさらに別のことをする時に、そういったものがあると広島にとって良いのかということを議論する場であると思っています。

加藤（厚）委員

いろんな視点があるので、ポイントを絞っていただけると議論がしやすいと思うんですけど。どこから。

三浦会長

今回は初めての会合です。先ほど私が冒頭で申し上げましたように、今までスタジアムに関わりが深かった方、あるいはそうではない方が集まっているわけですので、今は、特に議論ではなくて、そういったものに対して共通認識を深めていく段階だと思います。今、私たちの協議会について課されているものがこうだということを私の方で説明をしたわけですが、これについて、例えば御自身はこの視点がもう少し必要だとか、思われたことを発言頂くもので、具体的にそれぞれについての御意見というわけではないです。

加藤（厚）委員

なるほど。そうしますと、私は建設コストとか収支計画、このあたりをどのくらいの規模のもので、どれくらいの採算ベースでやっていくのかをきちっとしておかないと後々大きな問題になるのかなと感じているのですが。

加藤（義）委員

先ほど市長の御挨拶にありましたように、サッカースタジアムを造るということで検討を進めて、ある程度成果としてまとめられたら、後は具体的な対応とか、協議を進めて市の活

性化に役に立つかどうかということの評価するという挨拶をされまして、そのとおりかな、そういう思いで私たちも取り組む必要があるのかなと。だから、一応サッカースタジアムを、どこかわかりませんが、造るという前提で、造るならばこんなことをしたらこんな効果があるということをする役割だなと認識しております。今加藤先生も言われましたように、建設主体とか、運営管理方法とか収支、それから維持管理の仕方、資金の調達の仕方とか経済波及効果など、このメンバーだけではできないテーマがあるわけですね。5番目くらいまでは何とかやっつけていても、6番目以降はかなり専門的な技術が要るので、そこからは、例えば県や市の方々の御支援を頼むとか、外部に委託してお願いするとか、そんな支援体制が要ると思う。そこらを考えて、進めながら検討していくという方法もあるかも分かりませんが、将来考える必要があるということだけ共通認識にしておきたい。

一つ質問で、(9)に「新たにサッカースタジアムを建設することで生じる既存の類似施設」というのは、ある意味ではビッグアーチのことかなと思っていますが、そういう認識でよろしいですね。

三浦会長

私がこれを考えてくださいと言ったわけではないので、おそらくエディオンスタジアム広島のことを想定されていると思いますが、事務局の方はそれでよろしいですか。

今御意見をいただいた件は、この協議会に規約があって、規約の第4条の2項に「協議会は、必要があると認めるときは、会議に専門家の出席を求め、意見を聴くことができる。」とありますので、今、御指摘のように、永田委員のようにある程度関わられる方、加藤委員も言われたように、経営的な視点をお持ちの専門家もいるわけですが、具体的にサッカースタジアムそのものの建設とかとなると、それは私に近い領域ですけれど、建設系の話であるとか、運営の話、それから実際の事業をどう進めるか、これは他に先行的にやっているところの状況とかを全部知る必要があると思います。そのときに、そういったものについて情報をお持ちの方、見識をお持ちの専門の方に来ていただいて、ここでしっかり私たちに情報提供していただいくべきであると思っています。

加藤（義）委員

専門家に加えて、例えば、今広島市に空き地や広場、サッカー球場ができるような広い土地がどこにあるかという話になると、市や県の当局から情報をもらわないといけない。そこにはどういった規制があるのか、あるいは建設に当たってどのような条件があるのかということから絞り込みが必要なので、そういう情報も、市、県、商工会議所やサッカー協会から情報提供してもらえるような体制にしてほしいと思っています。

三浦会長

それについては、私もそう思います。スタジアムだけではなく、ほかの色々な事業の計画があって、全てにおいて広島の将来について考える必要があるので、そこは適宜だと思っています。

川平委員

第1回ということなので、このことについて自分自身十分整理できているわけではないのですが、広域公園陸上競技場が現在抱える課題は、この中に書いてあるとおりですが、この中で、新しいスタジアムを造りたいという気運が盛り上がっているのは事実なので、それがあつた方がいいのか、無くてもいいのかというと、あつた方がいいに決まっていると思います。ただ、その中で問題が2つあって、造るまでの問題と作った後の問題、そこは整理してやらないと、後に禍根を残すことになってはいけないという気がします。それともう一つは、Jリーグが始まって20年になりますが、これまで各地にいろんなスタジアムが造られてきたわけなので、そのあたりの状況も調べる中で、我々がどう判断するかを考えていかないといけないと思っています。

小谷野委員

この内容の中で、特にスタジアムの規格については、我々の一存だけでは決まらない部分、具体的にはJリーグがクラブライセンスを発行している中で、Jリーグの規格にあつたものをどうやって作っていくのかという部分も非常に重要なポイントだと思います。また同時に、今全国でスタジアムを建てる競争のようなものが起きている中で、どういう話がJリーグと建設計画のある自治体やクラブと行われているのかというところを正確に知っておく必要もあると思います。この会議の規約の話に戻りますと、Jリーグ関係者を専門家と呼んで、意見を述べてもらったり、我々からも率直な質問をしたりといった場を設けていきたいと思っている。先ほど加藤委員からも指摘のあつたとおり、1番から5番までは、ここにいる委員の話し合いの中で、ある程度の議論を形にしていくことが可能だと思いますが、6・7・8・9になると、都市計画とか、数字をきちんと固めることができる人を実際に呼んでくるのが極めて大事なのかなと思います。特に、収支計画のあたりになると、単に誰かが数字をはじいて、だいたい基本係数だとこんなふうになりますというのがポンと出てきて終わりというのではなく、試算の前提になる数字をチェックして、財務の予測のシミュレーションをやり直すとか、機動的に数字を詰める必要性が出てくるのかなと思いますので、その辺については、専門家の使い方といっても、かなり機動的に動ける体制を作っていただきたいと思っています。

それから、スケジュール感でいいますと、別途来年3月に向けて旧市民球場跡地をどうするのかという委員会も動いていて、ある程度の結論のようなものが来年の3月ぐらいを目途にできるんじゃないかという話も聞こえていますので、38万人の署名を集めて、市民球場跡地にスタジアムということで動いている当方の立場からしますと、来年の3月末までの段階では、旧市民球場跡地にスタジアムを造るとしたら一体どういうものができるのかという部分を、早めにこの協議会でまとめていただけると助かるということがあると思います。向こうで3月末までにいろんな話が進んでいる中で、こっちがある種置いてけぼりを食らって市民球場跡地に造るのはなしよという話になると、我々としては最悪の事態ですので、議事の進め方については、その辺も御配慮いただけると有難いと思います。

高木委員

今の御意見はごもっともだと思いますが、多様性の時代ですので、それ以外の考え方もあるということで、私は、先ほど市長がお話なさいました市民の納得いく内容、そしてまちづ

くりという視点の中で、広島サッカー専用スタジアム建設の議論の前に、都市の理念を再確認して、共通の認識の上で次に進むのが好ましいと考えます。なぜかと申しますと、この仕事は、都市の未来を創造する広島にとっては大きな問題だと思います。大人の満足感ではなく、これからの子どもたちの未来のために、もっと夢の持てる広島の街の環境を整えるのが私たち大人の使命だと思うからです。その上で、どんなことを広島に望むかという中で、都市に人が集まる文化としては、祈りの文化であるとかエキサイトの文化、憩いの文化といったいろいろな文化が必要です。その中で、スポーツ、ショッピングというのは、エキサイトする文化だと思います。街の文化を考えると、広島市は国際平和文化都市ということがここに来るときにも目に映りました。国際平和、そして文化都市をどのように構図を持っているのか。平成10年6月に改定された都市の基本構想があります。その中で、どのようにスポーツの文化を街の中で育てていくのか、その将来ビジョンが見えれば、皆さんが納得して、何を挙げましても反対意見と賛成意見と、永久に、今回も地元から反対意見が出ています。そういうことがなぜ起こるのかというのは、私たちの将来像が市民の皆さんにきちっと見えてないからではないかと思います。私は、納得のいく内容にしていくために、もう一度理念の共有からということを提案したいと思います。

三浦会長

非常に重要な点を指摘していただいたと思います。今、国際平和文化都市という言葉がありましたが、私自身も、他の都市に比較して、広島がどのような都市であるのか。いろんな計画等、文章では表現されているのですが、それが具体的にどういう形で市民に対して、あるいは市の外にいる人たちに対して発信できているか、見せることができるようになっていくかというところがポイントになってくると思います。それができないと都市として、これから広島が、極端な言い方をすると、今都市というのは、都市間競争で生き残り戦略というところを非常に言われているのですが、そういったところでの生き残りが難しくなってくるが出てくるかなと思います。今言われたように広島の街でのスポーツの文化、今回は、その中でもサッカーというものの文化をどう位置づけていくのかというところが一つ議論として必要だと思いました。

塚井委員

先ほど高木委員も言及されましたが、私もサッカースタジアムの建設という意味で考えたときに、これが必要であろうと。広島のためにそれが次の新しい可能性を生み出す施設になろうという期待感をものすごく持っています。したがって、そこから議論ということで、正に白紙から議論という進行をされるのがよろしいかと思いますが、個人的には何とか実現できないのかなというふうには考えています。ですが、話し合いが進んでいったときに、おそらく場所の問題が一番効いてくると思います。幸いにも、私はこの中で言えば一番近いのが交通アクセスとかといったところが専門なのですが、現状の認識で申しますと、昨年ずっと西風新都のまちづくりに関わっていた関係もあって、アクセスと施設の関係というのをつけずに施設を造ってしまった、はっきり言って、そのところに長いこと手をつけられずにきたというところが大きな問題であろうかと思っています。移した後、例えば市民球場跡地という所は、規模がどれぐらいになるということもありますが、もともと実績があったわけです。

市民球場という施設があり、インフラがあり、それがさばけるはずだというところがおそらく前提で、市民球場の当初から比べますと、アストラムライン等も整備されましたので、そういった施設によってアクセスがより好適になるであろうというところであろうと思います。この立地の強みというのは、十分に検討していく価値があるかなと思います。その一方で、少し懸念しているところもあります。それは、広島のアイデンティティの中の一つです。今も平和というキーワードが出てきましたが、以前から平和公園からのビスタ、景観を見たときによく言われることですが、商工会議所それからよく見ると右側に市民球場のライトが原爆ドームの借景になっている。これをどうするのかという話もあって、おそらく跡地委員会の方では、それもある程度考慮に入れた議論がなされているのではないかと思います。私は、スポーツ施設の設計そのものは専門ではありませんので、そこはどうか分かりませんが、このビスタの問題、視界の問題というのは、広島のアイデンティティとして、平和公園をどう考えていくのかというところは、沢山の回の検討が行われるようですから、どこかの回で、1回まるまる使うほどのことではないでしょうが、少しお考えいただきたいというふうに思います。そちらとの調和がない限り、なかなか長い将来の都市を設計していく上で、平和都市、悲惨な過去ではありましたが、力強く今立ち上がっている広島の状態というのを発信していくことも非常に重要なことだと思います。跡地利用委員会の問題になるのかもしれませんが、個人的に若干気にしているのは、混雑の問題もそうですが、スタジアムというのは、基本的に粗密のある施設です。したがって、多いときは多いのですが、平均的な回転率を考えると、果たして市の中心部に適した施設なのかどうか。この辺はかなり細かい話、先ほど数字を積み上げてというお話もありましたが、ぜひ混雑の部分だけを見るのではなくて、市の中心部の土地を使うのに、平均的な土地の使い方としてスタジアムというのが望ましいのか、あるいはスタジアムだけで設計をすれば駄目だけれど、どうやって付加価値を高めていけば、ある意味土地が有効活用されるのか、そういったところも視点として必要なかなと感じています。

永田委員

まず、このサッカースタジアム検討協議会の委員を拝命するにあたって、サッカースタジアムということで、サンフレッチェが念頭にあるのですが、果たしてこれがカープ、野球場だったらこういった検討協議会が設立されたのかなというのがまずあるんですね。カープであれば、私の知っている中では何もなくてそのままできてしまい、旧市民球場からマツダスタジアムに移ったわけですね。こういった新しいスタジアムを造るかどうか、どこに造るかどうかという協議会が、確かにあったと思うのですが、本当に要るのかどうかを協議したものがあつたのかなというのがまず一つありまして、共通認識として、では、なぜサッカーだったらこんなにみんなで考えなきゃいけないのかなというのがまずあります。今回、この検討協議会の中に求められているものとして、広島という都市の将来、サンフレッチェ広島の将来、それからスポーツ文化の将来、もっと言うと、都市と広島とスポーツの将来というものをどうしていくのかということ問われているのかなと。はっきり言いまして、将来のことは分かりません。例えば5年後10年後ということは想定できますけれど、将来のことは流動的であって、その辺を我々にどこまで求められているのかな。スタジアムが要るか要らないかの議論ではなくて、まず必要だろうと。なぜかといいますと、サンフレッチェ広島の経

営という、スポーツの経営というビジネスで、スタジアムというものは圧倒的に重要な収入源でもありますし、スポーツというものは空間エンターテインメントであって、空間がない状況でゲームを提供するというのは、早く言えば、言葉は悪いですが、サンフレッチェ広島の試合は、今欠陥商品売っているという状況になっていると思います。ですから、場を提供する、場というのがサッカースタジアムであり、サッカースタジアムでゲームを行って完結する、そういったものが商品として必要だろうと。それがまずサンフレッチェの必要性といえますか、サンフレッチェの将来といえますか、現状すぐにでも必要なものだと思います。広島の将来像を考えていく中で、今ちょうど広島に追い風が吹いているのかなという感じがありまして、まず国内ではミシュランで広島が取り上げられて、多くの人々が広島に着目し始めた。ということで、もしかすると多くの方が広島にツーリズムとして訪れる可能性が出てきているというものがまず一つと、海外では、全世界の観光スポットのベスト5の中に、なんと広島の平和公園と宮島がランク付けされていました。海外の方も多く広島に集まり、これから国内の方も多く広島に集まってくる中で、広島というものはどれだけその方々を取り込めるか、そういった方々に、好き好きもあると思いますが、サッカーという競技を、サンフレッチェ広島を知っていただく機会にもなるかなと。サッカーというのは、FIFAによりますと、2012年度サッカーの競技人口は3億人、サッカーのファンが世界に35億人いると言われています。そういった方々をうまく取り込んでいけば、広島を活性化できる。もっと言うと、本来活性化というのは、お金が動かないと、お金が落ちなくては活性化はできないと思います。そういう意味で、お金を落とす仕組みの中で、サンフレッチェ広島のスタジアムも一つの案という形で考えていく必要があるかなと思っています。ですから、広島の将来と形で、先ほどいろんな委員から御意見がありましたが、確かに、広島は片仮名のヒロシマ、ローマ字のHiroshimaというものがあります。そういった意味も含めて、広島の行政がスポーツをどういうふうに位置付けして、今後、都市を活性化させていくのかというのを、まず市の当局者の方にも、ちょっとお聞きしたいという気持ちもありますし、まずスポーツをどういうふうに考えていくのか、その中で、単純にサッカーというものが一つあるだけであって、そこまで我々に意見を求めるのであれば、単純にサッカースタジアムが要るか要らないか、どこに造るか造らないかで終わってしまったのでは、もったいないなど。せっかくこういう形できたので、広島市全体の将来像、行政を含めた将来像を提言できるような機会にしたいかなというふうに考えています。

野村委員

これにはいろいろ段階があると思ひまして、サッカースタジアムの検討協議会ですから、まずサッカースタジアムをどこに作るのか、場所までここでいろいろと検討するのでは、観音がいいとか、宇品がいいとか、市民球場跡地がいいとか、いろいろ出ていますけれど、それからスタートしたのでは、とてもこれはできないですよ。せっかく市長が市民球場跡地を、サッカースタジアムを考えてもいい、一つの候補だというようなことを発言しておられますので、これについては、やはり早急にスタジアムを市民球場跡地に作るという前提で、この協議会を進めないと。いろいろ立派なことをお考えで、非常にありがたいんですけど、私は、まず場所をどこを前提にするのかということ、この協議会でスタートにしてもらいたい。それから、来年の3月までという話がありますが、来年の3月まで待っていたので

は、他のものが出てきますよ。他のものが出てきたのでは、サッカーは予算も付いていない中でやっているのに、他のものは予算が付くかもしれないという話がありますから、それと競争にならないということがありますので、できたら、可能な限り、毎月1回じゃなくて、最初の4、5回くらいは月2回くらい開催していただいて、早く場所の選定だけはしていただきたいというふうに思います。それから、規模とか経済効果、アクセスの問題もあるでしょうし、いろんなことはそれから考えればいいのであって、まずはどこにするかということではないかと私は思っています。

三浦会長

今の御意見は、個人的な御意見ということで、今回この協議会でその方向でするかどうかは、また別にさせていただきたい。といいますのは、ベースとして私たちがこの協議会に参画をするということが要請されたときには、色々なバックボーンを持つ方が集まるのですけれども、組織から離れて個人として、広島という所にどのようなサッカースタジアムが必要なのかを考えるということでした。例えば、私等が今回入っていますのは、広島のまちづくりの中で、今永田委員等も言われましたけれども、スポーツというものを広島がどう捉えるのか、そこまで踏み込んで考えるからこそこの協議会だと思っています。今言われたように、具体的に球場跡地に造るならどう造るか、それは決まった段階の細かい詰めになりますので、それより先に議論することはあると思います。当然球場跡地というものが一つの候補として挙げられていることは事実だと思いますし、時間も限られていまして、3月までに、ある程度の方向性を見せないといけないということもあるのですが、そこありきで入るのは早急なことだと思っています。

山根副会長

Jリーグができて20年経って、サンフレッチェ広島のリーグ優勝というので、県内の盛り上がりがありました。プロ野球に次ぐプロスポーツとしてのプロサッカー競技が社会にとって必要な存在であるということとはよく分かっています。また、サンフレッチェ広島は、いろいろ地域へのスポーツの支援、子供たちへもそういうことをされているというようなことも含めて、地域に根付いておられる。そういう意味で、まず今、サッカースタジアムを考える時期にきたという認識で、この協議会ができたと思っています。あくまで先ほどのサッカースタジアム整備に係る諸課題を整理して、検討していくことが大切だろうと思っています。私ども広島市スポーツ協会は、私はその会長という役割を持っていますので、広島市民のスポーツの振興に繋がる方策をということでと思っています。今から検討していく上において、先ほどからの議論にもありますように、専門力ということ、あるいは迅速力ということが重要だと思います。サッカー協会が事務局ということになっていますが、県、市、商工会議所が力を出していただいて、資料収集など委員の要求に応えていただきたいと思います。そういう意味で、この冒頭にありました会長の所見といいますか、説明のとおり進めていくことが望まれていると思っています。

三浦会長

今、それぞれの委員の方から言われた課題については、事務局側で整理をして、早急に各

委員の方に共通認識としていき、次回、それを踏まえた上で議論を進めていきたいと思っています。今後、議論すべき事柄は増えていくと思いますが、まずは、今の段階での御意見として整理させていただきたいと思っています。

加藤（義）委員

皆さんの御意見を聞いて、スケジュールの話が出てきたので、2点ほどお話をさせていただきたい。1つは、今回私たちに与えられた命題はサッカースタジアムを造るということを前提に検討を進めていくということで、それを提案して評価を受けるわけですが、その中では、例えば、先ほど野村さんが言われたような球場跡地に造ろう、それから空港跡地でもどうか、今空き地がどこにあるのかということから調べなければいけない。全部のポイントについて検討が必要だと思うのです。しかし、例えば、球場跡地というのが一つ、新聞やいろいろなものに出ていますから、それを検討するとすれば、どこかのスタジアムのイメージをそのまま持ってきて、こんなものを造ったらいいねと言うんじゃないで、紙屋町の球場跡地に広島市らしいスタジアムを造るには、どんな素晴らしいものができるかというのは、私たちが造らないと、後にもし選ばれたときの禍根を残すことになるんですね。それは、他の別な地点、例えば、どうなるか分かりませんが、空港跡地に造るのなら、その場所で最適な素晴らしい設計をしてみないといけない。それから、別な所に土地があるよという話になれば、そこで検討する場合は、その場所で一番いいデザインをしないとイケないんですね。そういう意味で、野球場の跡地に造る場合のデザインというものは、本気で取り組まないといけないと思うんです。ただイメージだけで議論するのではなくて、実際に景観がどうかという話も、設計してみて、実感がないと評価ができないと思うんですよね。今、美術館とか文化施設がどのような検討を進めておられるのか、良く分かりませんが、いずれそこらの比較をしようということで、この協議会も始まっているのではないかと思います。これは配りませんが、中国新聞に出たスケジュール、これは市から提供されたものでなくて、いろいろお話を中国新聞社の記者の方から提示されて、非常にいろんな所にずっとコンスタントに出ているから、ある程度固められたものかなと思うのですが、これを見ると、文化施設とか緑地広場とかあって、もう一つ、スタジアムをそこに造ったらどうかという案を、最後にぶつけようというのが来年3月です。そういう目標で、今回もスケジュールの話が、もし3月に中間報告となれば、ここの場所に造るのに、時間的にそんなに余裕がないですね。イメージだけでなく、本当に実感が得られるようなデザインをしなければいけないと思うのです。そこまでが我々の仕事だと思うのです。そういう意味で、3か所になるか4か所になるかは、今から調べて候補地を見てやるんですが、それぞれの所でベストなデザインをしていって、後の禍根を残さないようにしていかなければいけない。そういう意味から言えば、ある程度、ここにいう野球場跡地に造るというのを先行しなければ間に合わないんじゃないかなと思うんです。もちろん早く終われば、後の地点もやれる。野村さんが言われたどこの地点が必要かなというのは、早く取りかからなければいけないのは事実です。しかし、野球場跡地というのは、候補地として一つあるわけです。それについては、どういう評価を受けるか分からないけれども、サッカースタジアムをここに造るとなれば、こんな素敵なものができるというのは、本気で取り組んでいって、デザインまでしたいなど。そうでないと、市民の共感が得られないと思うんですよね。その後、禍根を残さないように都市計画なり、

特に詳しいものはありませんから、ある意味、リードするような感じでデザインが要るのかという感じもしています。それくらいの意気込みで取り組んでいきたいと思いますので、どうかよろしくお願いします。

三浦会長

私の受け止め方としては、今言われているスタジアムデザインということですが、もう少し前の段階から考えていくべきかと思います。広島市の大きな都市デザインの中で、サッカーを中心にスポーツ文化をどうするかからまず考えないといけないのかなと考えます。一方で、別の会議も動いているということで、私たちに残されている時間は少ないということも理解しています。だからといって、そこに足を引っ張られるとか、そこにあまり影響を受けると良くないと思っていますので、歯がゆいということもあるかと思いますが、まずはそういったことをなしに、素の状態より広島のまちをこれからどうするかという中でのスポーツのあり様、とりわけ今回はサッカーということで、広島にどのように根付いているのか、周りに対してどのような影響力があるのか、その辺も踏まえつつ考えていくべきだと思っています。多少最初歯がゆいかもしれませんが、ご了承ください。よろしいでしょうか。

今、進め方についてありましたが、先ほどの「サッカースタジアム検討協議会について」という四者からの意見書の3番ですね。「進め方」というところをご覧いただきたいと思います。これまで皆さんからも意見がありましたように、いろいろな課題を抱えているところがあります。私の方から言いましたように、スポーツ文化という中でどうするかという大きな視点も必要ですし、実際作るときに、希望としてはあればいいというのは当然あるわけですが、建設、運営、そういったところまでしっかり考えていく必要があります。

サッカースタジアム整備に係る諸課題への具体的かつ実践的な解決策を策定、今後考えていくわけです。そこで、「協議会の役割」としては、われわれはあくまで個人の立場でサッカースタジアム整備に関しての課題について、まずは議論していきましょうということです。それぞれバックボーンが異なっている者がここに集まっているわけですが、組織の代表ではなく、有識者が個人の立場で議論するということです。当然、いろんな組織に属されていますので、そこで得られた知識であるとかお考えは、当然本人のものとして確立されていますから、それを否定することではないのです。そして、議論をした上で、これが広島にとってこのメンバーで議論した中ではいいということを取りまとめていって、それを行政や経済界へ提案していくということになっています。こういった立場であるということは、しっかり認識して進めさせていただきたいと思います。また、専門家の意見も聞きますが、それを情報として入手した上で、私たちがうまく自分の中で理解した上で、考えていければと思っています。自由に議論は進めるのですけれども、じっくり話もしていきたいと思っています。

それから、「スケジュール」ということです。今考えていますのは、概ね月1回程度の協議会開催ということで、月2回くらいという御意見もありましたが、この辺りは事務局と皆様方のスケジュールとの関係もありますので、そこも踏まえて考えていきたいと思います。その上で、専門家の意見もこれからいろいろ聞きます。そして、2に掲げる諸課題、それに今回意見をいただいたことを加えた上で、ある程度、関連するテーマごとに、専門家の御意見も参酌しながら検討していく、そして、一定の方向性を出せるようにするということです。それで、今年度末、関係する他の所の議論もありますので、中間取りまとめをしないといけ

ないということです。まずは、年度末にある程度の方向性が出せるようにということで、議論を進めていきたいと思っています。最終的には、翌年度の秋ということになっています。

先ほどから、このメンバーだけでは不十分だということで、専門家を呼ぶべきだという意見もありました。こうした意見も踏まえながら議論を進めていく必要があると思っています。それから、こういったことを議論する上で必要だと思われた資料は、事務局を通じて、今回この協議会の立上げについて御意見をいただいた広島県サッカー協会、広島県、広島市及び広島商工会議所、それから先ほどＪリーグの話もありましたが、そういった所に資料を要求していったら、皆さんと共通認識をして議論を進めたいと思っていますので、お願いしたいと思います。今後、私たちがよく分かっていないところ、例えば、広島市自体がどのような都市としたいかということについての意見も聞きたいということでしたので、そういった広島市の考えを聞く場も必要だと思います。お互いが知識の中で不足している部分を補って議論を進めていければと思っています。以上がスケジュールということで進めさせていただきます。

もう１時間３０分くらい経過しました。そこで、実際に今回の議論が出た発端といいますか、現状でサンフレッチェがＪリーグの公式戦で使用されているエディオンスタジアム広島がありますが、ここが十分であればこういう議論をわざわざする必要がなかったわけで、ここについて、いろいろ状況として抱えていることがあるのだということです。これについて山根委員から資料の提供がありましたので、説明をいただければと思います。よろしく願いいたします。

山根副会長

資料をお配りしております。広島広域公園陸上競技場「エディオンスタジアム広島の概要」ということでございます。

公益財団法人広島市スポーツ協会は、広島市から広島広域公園の指定管理者に選定されています。その立場でお話をさせていただきます。

まず、施設の概要でございますが、平成５年、１９９３年４月に開設して以降、今年で２０年目を迎えております。収容人員は５万人、日本陸上競技連盟が公認した国際的な陸上競技大会の開催が可能な第１種陸上競技場であります。Ｊリーグの公式戦が開催できる競技場でもあります。

利用状況でございます。平成６年、１９９４年の第１２回アジア競技大会、平成８年、１９９６年の第５１回国民体育大会といった国際的・全国的なスポーツイベントのメイン会場として使用されています。

陸上競技では、平成５年、１９９３年以降、織田幹雄記念国際陸上競技大会の会場として毎年使用されているところであり、平成２１年、２００９年には第９３回日本陸上競技選手権大会も開催されています。サッカーでは、平成６年、１９９４年以降、サンフレッチェ広島のホームスタジアムとして使用されておまして、キリンカップでは日本ナショナルチームの試合も行われており、国際的・全国的規模の試合の会場として使用されてきました。また、数は多くありませんが、スポーツ以外にも集客力のあるコンサート会場として使用されており、広島市の大規模イベントの会場としての役割を担っています。そのほかにも、小・中・高校等の各種陸上競技大会、広島市スポーツ・レクリエーションフェスティバル、安佐

南区民交流駅伝大会等の市民レベルのスポーツ・レクリエーションにも利用されております。

平成23年度、2011年度の利用件数は、年間197件、観客数は約34万3,000人で、そのうち、サンフレッチェ広島の利用件数が19件で、観客数は約25万9,000人です。観客数では76%ということでございます。

収支状況は2ページ目をお開きください。収支状況ですが、平成23年度、2011年度は、広島広域公園全体の収入は、陸上競技場やテニスコートなどの使用料を含め全体で約1億6,260万円でございます。また、陸上競技場だけの使用料収入は約1億870万円で、そのうち、サンフレッチェ広島分が約6,510万円で、約60パーセントを占めています。これに対して支出は、約4億1,640万円でありまして、収入から支出を差し引いた額は、マイナス約2億5,380万円となっています。

なお、支出に関しては、広島市からの指定管理業務は、陸上競技場だけでなく、ほかの施設を含めて受託されておりますので、一括で管理しております。陸上競技場部分だけを厳密に抜き出すことはできません。

次に、課題とその対応ということですが、完成から20年が経過し、施設の老朽化が進んでおり、施設所有者の広島市が、順次、必要な改修を行っているところであります。昨年度は、Jリーグが定めるホームスタジアムの施設基準を満たしていないという照明設備の改修を行いました。現在は、今年の2月に発生した大型映像装置の不具合に対応するため、仮設の映像装置の設置に取り組んでいるところであります。広島市では、Jリーグをはじめ国際的なスポーツ大会が開催できるよう、施設の改修に取り組んでいます。改修に毎年約7～8千万円、現状の応急改修のようなところがかかっているところであります。利用者であるスポーツ団体等からの要望に十分に答えていない状況もあります。このため、広島市では、大規模修繕のための財源確保を図るため、陸上競技場の命名権について、株式会社エディオンと、命名権料年間3,300万円の使用期間3年間という契約を締結しているところであります。本年3月1日から、新たな名称として「エディオンスタジアム広島」という使用を開始しているところであります。簡単な説明でございますが、私からの説明は以上です。

三浦会長

過去3年間のデータですけれども、それ以前もだいたい似たような状況だということですね。

野村委員

収容人員の5万人は椅子席を詰めての5万人。座らせているのは、4万2千か3千くらいの実績ですよ、間違わないように。それから、陸上競技場は8レーンしかないんですが、国際基準は9レーンです。だから、広島では国際試合はできない。9レーン作らないと世界陸上のような大きい大会は開催できない。それから、サッカーでは、1992年にアジアカップを開催して超満員になった。日本が優勝したんですが、広島の高木琢也が決勝点を挙げました。ちょっと気が付いたところを申し上げました。

永田委員

命名権料が年間3,300万円ということなんですが、この算出根拠というのを、ご存じ

であれば教えていただきたいんですが。簡単に言えば、他の施設等は、かなりの高額な命名権等の年間使用料がありますので、3, 300万円というのは、どういう数字がきたのかなということを、ご存じであれば教えていただきたいと思います。

山根委員

私の方では分かりません。

小谷野委員

最低入札が3千万円のところを、3, 300万円で落札したのではないかと思います。

永田委員

最低限を3千万円にしたというわけですね。その辺がちょっと不明瞭だったので、金額がどういうふうに決められたのかなということが知りたかったので、以上でございます。

三浦会長

今の点は、事務局で一度調べて情報提示をお願いしたいと思います。

小谷野委員

スタジアムの規模につきましては、公称5万人ということですが、サッカーの観戦で、長椅子になっている個席でない部分について、割と快適に見られるということで、なおかつ、アウェイサポーターとの間に緩衝帯を設けるという施策を施した場合に、だいたい3万4, 500人が、今のサンフレッチェ広島のJ1リーグの興業としては、いっぱいいっぱい、仮にそれ以上入った場合は、どこかで立ち見が出るんだろうなということになります。逆に、立ち見をなくしましょうということで、長椅子の部分をきつきつに詰めて座るようにすると、だいたい4万2, 500人とかですね。これくらいが限界だろうと思います。そうした意味で、通常のJリーグの主催試合においては、3万5千人に近づいてきた段階で発券は止めるような形で運営をしております。

塚井委員

資料を見させていただいて、私は、必ずしもサッカーの事情に詳しくないので、大変勉強になります。それで、一つ、先ほども加藤委員の方からの話、あるいは永田委員の方からの話がありましたけれども、是非とも、どこでどんな議論をするにせよ、アクセスの問題はくつつけて考えていただきたい。スタジアムの中だけを議論するのは、適切ではないと思います。それは、現在のスタジアムの立地に関して、西風新都が抱えている様々な問題でもあります。そして、先ほど私は、市民球場に実績があると申しましたが、皆さん覚えておられますか。市民球場で試合が行われている時のあの歩道の状態、あれは決して、運べるというだけの話であって、快適なスポーツの体験ができるとか、素晴らしいエンターテインメントと言える状態ではなかったと、私は思います。それから、確かに、都市整備も進みましたが、相変わらずその周辺の問題ですね。これに関しては、現状と比較しますと、多分現在の立地よりも、こちらの方の立地の方がトータルではよろしいと言えるかもしれませんが、それは、

先ほども申し上げましたけれど、ポリシーの問題でありまして、通常は、そのスタジアムの周り、動線、この計画を一緒に立てて設計するものであります。そのトータルを含めて両側で比較をする、これが大事なことかと思えます。それから、西風新都を検討していたから申し上げるわけではありませんが、御意見は多様です。それぞれ完全に統一されるということはないかもしれませんが、この委員会の使命としては、各案を同じ土俵に並べて議論したと言えることでないと、なかなかそれは納得が得られないというふうに考えます。したがって、もちろん、順番に関しては、私が申し上げることではありませんけれども、ただ、あるところの立地だけを詳細に検討して、あとはあまり検討しなかったと、それで終わりというような話にしてしまうと、うまくいくもののうまくいなくなるであろうと。そういう意味で、公平に同じ条件で、できればアクセスも含めて、できればではなくて、必ずアクセスも含めてご検討いただければなというふうに感じました。いずれにしても、早急に何か対応が必要であるということを端的に示す資料であるかなというふうに理解させていただきました。

三浦会長

今の御意見については、後半は、先ほどのところの意見の方に入れた方がいい内容だと思いますね。ただ、資料については、スタジアムだけでなく、実際によく問題視されているアクセス部分の情報も欲しかったなということだと受け止めました。そのあたりは、また、今後の中で出てくると私の方も理解をしていますので、一度事務局の方にも確認をしておいていただければと思います。

小谷野委員

スタジアム、これはサンフレッチェにとって必要だということ、本当は、あまり会社の話をしてはいけんですが、このエディオンスタジアムの他にやっぱり要るんだという喫緊性について、客観的にちょっとお話したいんですけれども。今、JリーグのやっているJ's GOAL（ジェイズ・ゴール）というサイトの中で、スタジアムランキングというサイトがあるんですね。全国のスタジアムを訪れたJリーグのファンとか、サポーターの方々が人気投票してスタジアムガイド的なものも兼ねたサイトなんですけど、ここで、J1とJ2のチームが40クラブあるわけですね。1つのクラブが2か所使っていたり、2つのクラブが1つの競技場を共有したり、色んな状況もあるので、ダブりのスタジアムも数か所あるんですが、そのランキングでも、クラブが40しかないのに、エディオンスタジアムは、今52位なんです。この種のスタジアムの議論をする際に、まず論評に値しないというか、スタジアムの全国比較とかをする際に、まず外されるか、悪いスタジアムの代表で出てくるというのが、今のエディオンスタジアムの現状です。それと、スタジアムの動線という意味で言いますと、アストラムライン若しくはシャトルバスを降りてから、上り坂なんです。なので、地元の方にも今、一生懸命公共交通機関の利用をお願いしているんですが、これがなかなか進まないんですね。近場の駐車場に5時間6時間前から止めてでも車で来るみたいな形になって、非常に運営上、大変な問題となっています。徐々にスタジアムの周辺も造成が進んでまいりまして、駐車場の確保自体が困難な話になってきておりまして、普段は駐車場として使っていないような空き地を地権者の方々と交渉して、非常に観客が多く見込まれる試合には使わせてもらっている。なので、我々は、年末年始の一番シーズンチケットとかを売らなければ

いけない時に、営業マンが地権者に、来年も駐車場としてまた空き地を使わせてくださいと、挨拶に行ったり交渉に行ったりしている。夏場のナイターになると、そういう空き地みたいな所の草刈りをやったり、あるいは、投光器を設置したりとか、そういう話になってきてまして、もうサッカークラブの経営をやっているんだか、駐車場の手配士になっているんだか、分からないような状態になってまして。ちなみに、2万人を超えると、遠くの方の駐車場からスタジアムまでシャトルバスを出すような状況にもなっておりまして、だいたい客単価が平均で1600円くらいで、通常の観客1人当たりの運営費が800円くらい掛かるんですが、2万人を超えると、更に800円くらい掛かってきますんで、ほぼツツペになってくるということですね。計算の仕方によっては600円だったり700円だったりするんですが、我々現場の感覚としては、2万人を超えてくると、入場料の部分というのは、そうした追加的な手当でみんな消えてしまって、そうすると会場の飲食費とか、グッズの販売とか、そっちでカバーしなければいけないというような感じにもなりつつありますので、あの周辺地域の造成がこれ以上進む前に、早く手当てを、スタジアムを作っていただいて、付近の方々からも、かなり交通渋滞の苦情も出ていますので、円満な解決をしていきたいというふうに考えております。

高木委員

今のお話を伺ってしまして、先ほど野村様の国際大会ができないという話がございましたですね。もしそれを望むのであれば、私も、今回のあの渋谷のエキサイトしている様子をテレビで見て、やはりそういう大きな大会があるということは、そこに住んでいる人と訪れる人がかなりいるわけですね。そういうことを含めまして、先ほども出ましたけども、いろいろ考えますと、どこがいいのかというようなことが、もっと狭まれてくると思うんです。それぞれが必要とすることは分かるんですけども、もし望みが叶った場合にどうなるかというような、そこまでを詰めたお話が伺えていないので、あの渋谷の混雑ぶりを見てたりしますと、とても街中ではということを思いまして、サンフレッチェも球場が必要ということは分かるんですけども、地元の方を説得する材料ももっと揃えないと、作っていても、永久に問題が起こるんじゃないかと思います。もっと基になる考えを議論していただいた方がいいんじゃないかと思います。

小谷野委員

ワールドカップ等の日本代表の試合がある度に渋谷で騒いでいるのは、あれはサッカーファンの振りしている人でして、特にサポーターとは関係がありませんので、その辺は誤解なきようにお願いします。あれは、普段サッカーを見ていない変な人たちが、スポーツバー行って、日本代表が勝っても負けても、あそこの交差点に繰り出してやっている話ですので、その辺はサッカー関係者を代弁して、誤解を解いておきたいと思いますので、よろしくお願いします。

高木委員

本当にサッカーを愛する子どもたちを育てていかないと、やはり不安といいますか、一過性の人たちではなくて、本当に広島でもっと小さい時からサッカーを親しんでいて、あのよ

うになりたいという、今回の本田選手ではないですけど、個を強調しておられましたけれど、あのようになりたいというような、そういう選手がやはり広島で育っていけばいいかと、私はそう思っているんですよね。だから、子どもたちがそういうことをいいますと、やっぱり教育委員会の文化教育にどれだけ予算を組むかとか、いろんなことに関わりますので、深く追求はできないんですけども、もっともっと小さい内から、広島に行ったら、土曜日には皆、サッカーをしているというような土壌を作っていくことも、是非視野に入れていただきたいなと思います。

小谷野委員

地域貢献活動も頑張りますので、よろしくお願いします。

塚井委員

すみません。少し一つ前の話に戻りたいんですが、先ほど運営の話をされました。これは、県・市行政と、この関係者が集まっている中で、今回、あえて外された方々と言う意味で強く申し上げたいんですけども、どちらにしても、例えばサッカークラブの経営が、アクセスが悪くて、整理のための人員で圧迫されるというのは、本末転倒です、ある意味。西風新都で繰り返して出てきたお話は、ここは基盤が遅いと。街は開発したけれど、基盤ができていない、そういうことをしきりにおっしゃっていました。それは、常に論点になりました。実は、先ほどこちらの市民球場跡地に仮に持ってきた場合に起こる問題、これはどこに持ってきてても起こる問題なんですけども、基盤の整備、アクセスの整備のところは、最終的には公的な主体が担うしかないわけですね。その土地の所有関係から考えても。ここで問題を起こしているということは、そもそも「混雑の外部性」というふうに専門用語では言いますが、混雑によって皆さんに迷惑がかけると、ここの部分のコストを誰が負担するのか。これが事業者であるというのは奇妙です、はっきり言って。都市基盤として脆弱であると言わざるを得ない。したがって、どこで作るにしても、私は個人的には現在の西風新都というの、確かに苦しい立地条件ではございますけれども、何らかの解決の方策があるのかなのか、それも検討すべきじゃないかと思っていますが、それは置いておいて、しかしながら、どこで作るにしても、アクセスをきちんとするというのは、サッカースタジアムを単に建てるだけの話ではないということ、先ほどから繰り返して申し上げていますが、それは、この協議会の中で、ある程度整理した形で出されるべきかと。先ほどのコストの話は、非常に示唆的でして、そこまでひどい状態になっているというのは、私も思っておりませんでしたので、それも参考にさせていただきながら、公平な立場で議論を進めればなと思います。

永田委員

以前、私は新聞にも話をさせていただいたんですが、今回のスタジアムの議論というのが、広島にサンフレッチェ広島が未来永劫いて欲しいのか、いて欲しくないのか、どうなのかということが逆に問われているのかと思うんですね。Ｊリーグは、クラブライセンス制度で非常に厳しい財務基盤というものを強く求められています。そうした場合、サンフレッチェ広島が、今後未来永劫、黒字経営ができるかどうか。スポーツビジネスは難しい分野でもあるんですが、非常に難しく計算できなくなっているというのが、スタジアムがないと。要する

に、スポーツをする場がないという形になっていくのが一番ネックかなというふうに感じています。そこで、スタジアムのスポーツの場という話なんです、以前もお話させていただいてはいるんですが、大相撲なら土俵が要ります。野球ならカーブはマツダスタジアムがあるし、東京ドームがあるし、いろんな所がある。コカ・コーラウエストレッドスパークスであればホッケー場があるし。では、サンフレッチェ広島は陸上競技場ということになっている。そういった所で見てしまう。陸上は陸上競技場で見るのは当たり前なのですが、例えば、太田川放水路でカーブが試合をしたら、みんなが見に行くか。3万人も行くかどうかということが問題になると思いますし、そういったことを考えるならば、適した人数の専用のスタジアムを作るべきだなと。だから、もっと極端に言えば、サンフレッチェ広島は広島にいて欲しい。だからこそ、サッカースタジアムを作りたい。これは、どこの場所に作るのかというのは、みんなが考えながら、今挙げられている宇品だとか西飛行場跡地、市民球場跡地、そういったものがあって、そこに置いた場合、どういったインフラの整備が再度必要になって、どういうふうな経済支出が出てくる、その替わり、こういったベネフィットもある、そういった形で考慮していきながら、みんなで考えていく必要があるのかなというふうに感じております。以上でございます。

加藤（義）委員

今日、始めから御説明を受けたサッカースタジアム検討協議会の趣旨というところを、きちっと理解して、踏み外さないというよりは、着実に前進するように、期日に間に合うように進めなければいけないと思うんですね。その中で、サッカー熱の盛り上がり背景にうんぬんを書いてあって、上記の課題への改善策として、サッカースタジアムの整備が求められており、魅力あるサッカースタジアムは、新たな広島のシンボルとして広域的な集客効果を高めるなど、広島市ひいては県全体の活性化につながることを期待されていると。よって、これを背景に、我々が検討しようというのは、私たちに与えられた命題だと思うんです。ここを踏み外さないように、効率的に、今から着々といいデザインをしながら、その場その場で最高の提案をしていく必要があるのかなというふうに思うので、今から、どういうふうに進めるのか、事務局にも、スケジュール、いつまでにどういうものを作っていけばいいかなというスケジュールがないと、また昔の協議会みたいなことになりかねないというふうに思いますので、是非とも、スケジュールの議論が次ぐらいにあってもいいのかなという感じがしますね。今日、与えられているこのスケジュールについては、これは間に合わないと、やっぱり広島市の発展のブレーキになる恐れがあるんですね。そういう意味では、要求されたこれから踏み外さないように、きちっと精力的に対応していく必要があるなと強く感じております。

三浦会長

まさにそのとおりですね。私たちがやるべきことはそこにしっかりありますので、進めていこうと思います。それで、小谷野委員は、もう御意見等はよろしいでしょうか。今、スケジュールの話が出ました。来年度末の中間取りまとめに対しての大まかなスケジュールについて御意見も出ました。その辺は、一度、事務局の方とも議論をして、大まかには提示させていただきたいと思っていますので、会長の私の方に一任させていただければと思います。

次に、次回についてということで、もう一度、最初の課題の書いてある部分を見ていただければと思います。「サッカースタジアム整備に係る諸課題」というところですが、そういった中で、認識を共通にするという意味で、課題の1番、「永続的・安定的な利用の確保」ということです。3点あげてありますけれども、この点と2番、「長期的なJリーグの動向等を踏まえた対応」について、今回は説明を私たちが受けて、共通認識を持っていくということにさせていただきたいと思います。それ以降について、だいたい第何回に何をするか、今ご意見もありましたので、大まかなプランを見せていただいて、私たちがどれくらい議論できるのかということも考慮しながら、不足する場合は、まだ追加をしなければいけないと思いますので、事務局の方と詰めさせていただきたいと思います。そういったことでよろしいでしょうか。

野村委員

一度映像を見ていただければと思うんですが。先般、5月26日にアステールプラザでシンポジウムを、サンフレッチェとサッカー協会で開催したんですが、世界のいろんなスタジアム、それから日本のスタジアムのいろんな比較が出ておりまして、非常に参考になるのではないかと思います。それをちょっと見ていただいて、サッカースタジアム、サッカーだけでなく、一つの大きな街がそこにできるというふうなことを理解いただけるのではないかと思いますので、是非、その映像を見ていただき、説明もサンフレッチェの人が非常にうまく説明していただき、また、永田先生もうまく説明をしていただけますので、是非それを見ていただくのも大事ではないかと思いますので、よろしくお願いします。

三浦会長

サッカースタジアムそのものの共通認識をするということになると思いますので、分かりました。その他、ございませんか。以上ですね、本日、特段大きな議論をしたわけではなくて、私たちに課されていることの確認と、この協議会を進めていく中での大まかな、本当に大まかなスケジュールを認識できたということ。それから、それぞれのお考えによる課題について追加させていただいたということになると思います。次回の予定は7月上旬ということで、一月ごとの開催になっております。お手元に日程表が配られておりますので、ご覧いただいて、都合の悪い所を×印をしていただいて、その資料は置いておいていただきたいと思います。今、ちょっと分からない場合には、後ほど事務局宛にEメールかFAXなどで連絡していただいても結構と思います。次回、7月に開催してから、その次がどのくらいになるかということ踏まえて、今日いただいた意見も考えて、大まかな全体のスケジューリング、それから課題や考え方について整理をしていきたいと思います。その資料を基に事務局の方が調整をすることになります。

野村委員

事務局がサッカー協会になっているわけですがけれども、とてもサッカー協会だけではできません。サッカー協会の事務局員はいますけれども、今日の事業のことで非常に忙しい。ほとんどのスタッフはボランティアでやっておりますので、いろんなことをやろうといっても難しいので、是非、広島市の協力なくしては、この事務局は運営できないと思いますので、

是非よろしく願います。

三浦会長

私の方でそのあたりは調整させていただこうと思います。以上で、本日の協議会は閉会といたします。皆様、ご協力ありがとうございました。